

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 9月 12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4073100358
法人名	株式会社 筑紫館
事業所名	ライフケアホーム春日苑
所在地 (電話番号)	福岡県春日市天神山6丁目22番地 (電話) 092-575-6677

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年9月1日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(20年8月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年10月1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人	
職員数	18 人	常勤10人	非常勤8人	常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000円	有りの場合 償却の有無	1年以内退去は10万円返金	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

### (4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	9名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	76歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	済生会 二日市病院 ・ 樋口病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域と住宅街が融合する場所にあるホームは、設立者の看護師としての知識や経験を活かし地域に貢献したいとの思いで設立された。開設から5年が経過し隣には小規模多機能多機能居宅介護事業所も立ち上げ、地域の方々との交流、協力がありホームができることを積極的に行い、ホームの理念の一つである地域社会の一員として生活...が実施されている。その中で生活している利用者は明るく表情豊かである。設立者、管理者、職員の思いが一つになり利用者一人ひとりが安心して暮らしている様子が確認できた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点を会議にて管理者が職員に報告し、全職員が話し合い即座に改善を行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニットにてケアマネジャーをリーダーとし全職員に説明を行い職員からの意見を出してもらい、話し合った結果を元に管理者が自己評価をまとめた。自己評価をすることで職員の意識向上に繋がっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回定期的に開催しており、出席者は地域の代表者、利用者・家族の代表者、市の担当者、民生委員や職員等からなっており、隣の同法人の小規模多機能事業所と合同で開催している。会議内容はホームの状況報告、行事のお知らせや家族からの意見、要望に対する検討、事例検討等である。地域の方の出席が多く地域の活動や行事等の情報収集が得られており会議そのものが地域との交流の場となっていることが特徴的である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法(運営への反映)(関連項目:外部7,8)
	面会時に個々に話をし意見や要望を聴き取っている。玄関には意見箱を設置し、苦情があった場合は関係者と話し合いを行い対応している。家族会も満足し意見を表出できる機会を増やし少しの不安や苦情も対応する体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の清掃活動に職員が参加したり、夏祭りや運動会等地域の行事に利用者とともに参加し地域の一員として活動している。また、ホームでの利用者の誕生会に近隣の方が来訪され一緒にお祝いをしたり、野菜や花を頂くこともあり自然体で地域に溶け込んだ日常生活を送っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を第一に考え管理者、職員が共に話し合い作り上げた理念がある。「一人ひとりを尊重しプライバシーを守り安心と豊かな生活ができるよう..」入居者を家族と共に支え能力を発揮できるよう..」地域社会の一員として生活できるよう..」このような3つの柱を元に日々支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示しいつでも確認できるようにしている。会議等で管理者は職員に伝え、全員で共有している。採用時にも理念を説明し理念に沿ったケアをする取り組みをしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し地域の清掃活動に職員が参加したり夏祭りや運動会等には利用者も参加している。また、近隣の方が野菜や花等を届けて下さったり ホームでの利用者の誕生会等行事に参加されることもあり 自然体で地域と交流している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットで職員も含め話し合いを行い、自己評価の項目を確認している。改善点に対しては管理者が会議にて報告し、話し合い全職員と共に即座に取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の計画を立て、2ヶ月に1回会議を開いている。市の担当者、民生委員、家族代表、利用者代表、地域の関係者等の出席や特に地域からは公民館館長、婦人部会、近隣住民等多くの出席があり地域の交流の場となっている。その中でホームの様子の報告や事例検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時には必ず市の担当者や連絡を取り、相談等しやすい関係を構築している。市が開催する研修に参加し、ホームのサービスの質の向上に繋げている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部にて研修の計画を立て、外部研修に参加し、伝達研修を行うことにより職員の周知、理解を図っている。必要な人にはパンフレットを準備し説明を行っている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に利用者の近況報告をし必要に応じ電話連絡を行っている。また、利用者其々の個人連絡帳があり報告、連絡の漏れが無いよう家族に目を通してもらっている。金銭管理に関しては預かり金の管理を行い、金銭出納帳、現金と領収証等を照合し家族に確認してもらい捺印を頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員に家族が意見や苦情を訴えやすい環境を作り、玄関には意見箱を設置し、また要望等はいつでも聴き取っている。苦情があった場合は関係者と話し合いを持ち改善に向け取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人の隣の施設やユニットの異動は時折あるが、全職員が全利用者を把握している為、利用者とは顔見知りの関係となっておりスムーズにケアができています。計画担当者等の交代や離職の場合は、引継期間を2ヶ月程取り、十分に利用者の状態を把握できるよう配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>特に条件は無く、幅広い年齢層の採用を行っている。採用された職員は特技を活かし、行事等の環境作りや利用者と一緒に歌を歌う機会がある。また、スキルアップの為に資格取得に向け支援している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>カンファレンスに於いて管理者が利用者の人格を尊重することや、言葉使い等について話をしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、市が開く研修等は職員が交代で参加し、1ヶ月に1回のカンファレンスにて報告し情報を共有している。内部研修に関しては、担当者会議、研修報告等が主だが、年間計画は立てられていない。</p>		<p>外部研修の報告会にて情報の共有は成されているが、より職員の質の向上やサービス向上の為に、年間計画を立て、職員の経験や習熟度に応じた研修を実施することを希望する。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市のホームとの交流の機会があり、職員の訪問、来訪等気軽にできている。市の勉強会で情報交換する機会も多い。今後、職員同士の勉強会も実施したいとの思いがあり、計画する予定である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に、利用者、家族の見学とホームからの訪問を行い情報を収集し顔見知り関係構築している。体験利用も必要に応じて行いホームの様子に馴染めるよう配慮している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>理念の一つである、個人の能力を發揮できる環境作りを行い、生活の知恵を職員が教わったり昔の話を聞き本人を尊重する姿勢を持ち日々利用者と共に生活している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を取り入れ本人との会話の中にある思いや言葉を記録し、家族からも情報を収集し本人の意向を確認している。</p>		
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がよい暮らしするための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式から取り込んだ情報や本人の言葉を元にアセスメントを作り、本人、家族を交え担当者会議にて計画を作成しているが主治医からの意見や助言は協力医以外は聞き取れていない場合がある。</p>		<p>本人の言葉や意向を反映した計画書を作成し、ケアを行っているが主治医の意見や助言は高齢者であることから、必要である。状態安定の有無に関わらず、主治医と話し助言等が反映された計画を作成することを希望する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に1回のモニタリングにて全職員で検討しており3ヶ月ごとに計画を作り直しているが、短期目標に沿ったモニタリングになっておらず、見直した計画も見直し前の計画と内容が同じものになっている。</p>		<p>全職員にて利用者のモニタリングを行っていることは確認できたが、計画の目標に沿った見直しになっていないことは、せっかくのモニタリングが計画から反れケアからも反れるのではないだろうか。この機会にもう一度モニタリングの視点を検討していただきたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診が困難な利用者には訪問診療にて状態の確認を行っている。入院した場合は、頻りに面会に行き、洗濯物をとってきたり他の利用者も同行しお見舞いに行きホームの馴染みの顔を見ることで安心される。また、家族の宿泊等希望があれば受け入れている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話し合い納得されれば、協力医にて受診している。他科では訪問歯科、受診困難な利用者には訪問診療にて健康管理を行っている。その他、家族の協力にて受診し家族から情報を収集している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針を必要に応じ家族へ説明し同意書を交わしている。状態の変化に伴いその都度家族と話し合いをし意向を確認し協力医との連携も図っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の人格や意思を尊重し言葉遣い等には充分配慮している。不必要に個人の写真や名前を掲示することはしていない。記録物の保管は事務所の鍵の掛かる書庫に保管し個人情報の漏洩に努めている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション等おおまかな時間配分はあるが、本人のペースに合わせて自由に過ごしてもらっている。また、希望を取りその日その日にしたいことができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のできることをしてもらい、食事を作る楽しさを味わい、献立にも希望を取り入れ利用者と職員と一緒に食事を作っている。食事は職員も一緒に同じものを食し和やかな会話をしながら楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の設定はしておらず、自由に入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者へはさりげない言葉をかけ、1週間に2～3回は入浴できるよう取組んでいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ役割があり洗濯物たたみ、食事の後片付け、調理の下ごしらえ等楽しんでいる。誕生会、季節の行事、ドライブ等利用者が楽しみ気晴らしができるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できる限り戸外にでる機会を作っており、1日1回は必ず散歩や日光浴に誘い、必要に応じ買い物に出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、職員が見守りを行っている。利用者が外へ出たい時は職員も同行し思うままに歩き会話や景色を楽しんでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回夜間想定も含めた避難訓練を隣の施設と合同で実施している。その際には、民生委員や近隣の住民がいつでも駆けつけてもらえるよう協力体制ができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師の資格のある職員が献立を立て、以前働いていた栄養士が作ったカロリー計算書等を参考にしている。常に野菜を多く取り入れる工夫を行っている。食事摂取は個人記録に記しカロリー、栄養バランスを把握し、水分摂取に関しては、必要な利用者は記録し対応している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が家庭的な雰囲気落ち着いた環境となっている。玄関にはさりげなく咲いている花が飾られ、ホーム全体の採光のバランスも考慮され自然の光が入り明るく心地よいものとなっている。廊下や居室、トイレ等掃除が行き届き清潔感がある。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと箆笥はホームで準備しているが、その他の家具や、使い慣れた椅子や思い出のある品物が配置され、環境の変化を少なくする工夫がされている。		